

## 追 悼 名譽會員 田 中 清 治 君

本会名譽會員 田中清治君は、昭和42年8月12日午前7時30分、東京立川の自宅で閉塞性黄だんのため逝去せられました。ここに同君の冥福を祈り、つつしんで哀悼の意を表します。



### 経 歴

君は大正6年東京帝国大学工科大学採鉱冶金学科を卒業し、岩手県釜石鉱山に勤務し、その後東京帝国大学工学部冶金学科において俵教授の下で研究に従事し、大正14年12月助教授、昭和18年1月教授に任ぜられ鉄冶金学講座を担当し、昭和28年3月退官するまでの長期間学生の教育指導に当たり鉄冶金とくに製鉄製鋼の分野において後進の育成に尽した。また昭和28年5月老軀をも省みることなく、進んで千葉工業大学兼任教授、昭和40年4月以降専任教授として余生を学生の教育に専念し、この間終始その高潔な人格と卓越せる学識経験は、学生ならびに後進研究者の敬愛を一身に受け、教育上の貢献はまことに大なるものがあつた。

君はまた日本学術振興会製鋼第19委員会委員長を務め、製鋼、造塊などの諸分野において基礎研究体制の推進に努め、現在における同委員会隆盛の因となつている。

昭和25年より2年間本会会長として協会の発展に尽力し、鉄鋼製造に関する学術および技術研究の産学協同体制に著しく貢献した。会長辞任後も同協会の刊行事業に全力をあげ、「鉄鋼便覧」「鉄鋼製造法」の編集出版ならびに翻訳出版に当たつた。本書は現在に至るまで鉄鋼関係の研究者および技術者に対する参考書として広く活用されている。これらの功績によつて君は昭和40年4月本会創立40周年に当たつて製鉄功勞賞を受賞している。

### 弔 辞

日本鉄鋼協会前会長、名譽會員、東京大学名譽教授、工学博士故田中清治君の訃報に接し、洵に痛惜の念に堪えず謹んで弔辞を呈します。

博士は大正6年東京大学工学部冶金学科を卒業せらるるや直ちに釜石鉱山製鉄所に入所せられ、その後東京大学工学部教授、昭和28年には東京大学名譽教授となられ、現在千葉工業大学教授として教育界のためにご尽力なさつておられましたかたわら、昭和25年より27年の2年間当協会の会長として協会事業の発展に努力され、そのご功績大なるものがありました。昭和20年当協会の鉄鋼功勞賞牌を受賞、昭和39年4月当協会の名譽會員に推挙せられ、今後のご活躍をご期待いたしておりましたときに、突然永眠せられ、再び博士の温容に接することができなくなりましたことは洵に哀悼の念に堪えないところであります。

ここに日本製鋼協会を代表し、博士の遺された幾多の業績に対し深甚の敬意を表し、謹んでご冥福を祈り哀悼の誠を捧げます。

昭和42年8月15日

社団法人 日本鉄鋼協会会長 佐 野 幸 吉